

もり 森林と共に

一町域の東部は白鷹丘陵、
西部は朝日山系、中央を
最上川が流れ、豊かな自然に恵まれた町一

■白鷹町の森林

白鷹町の風景、そこには、必ず山があります。
白鷹町は、15,771haの町のうち、約65%、10,268haが森林です。その多くが先人たちが植え、育て上げた人工林であり、県下に誇る森林の町です。

■森林の持つ多くの役割

森林は人々の生活と関係性が深く、生命の源である水を蓄え、建物等に必要なる木材を供給し、山菜やキノコなどの林産物を恵んでくれます。そして、山の土砂流出・崩壊は健全な森林によって防がれています。

さらに、地球温暖化問題に対する森林の役割は大きく、令和3年11月に「ゼロカーボンシティ宣言」を行いました。森林は大気中の二酸化炭素を吸収し成長することから、地球温暖化抑制につながる重要な役割も担っています。

■甚大な被害をもたらした平成25・26年の豪雨災害をきっかけに

白鷹町はかつて林業の町として栄え、昭和初期には20数社の製材所があったと町史に記録されています。しかし、国産材価格は昭和55年をピークに下がり続け、町の林業も他の産地同様に縮小してきました。

そんな中、平成25・26年白鷹町を襲った豪雨災害。昭和42年の羽越水害の時にはなかった土砂の流出や山腹崩壊などが、町内各地で確認されました。町には根こそぎ倒れた杉の木が流れ、森林整備による山林の保全の重要性を認識することとなりました。

これらの状況を目の当たりにし、町民・行政が一体となり、平成26年、森林所有者、林業事業者、木材関係者、環境関係者で組織する「白鷹町森林・林業再生協議会」を立ち上げ、これまで、山の保全に向けた森林整備と森林の活用についての検討と推進を図ってきました。

る、施設建設の議論が行われていました。時を同じくして「白鷹町森林・林業再生協議会」においても木材の活用が議論されており、まちづくり複合施設については、木造で整備するという意見が出されました。議論を進める中で、材料は白鷹町の木で、町内の事業者で製材をして、町内の技術者をフル活用するという結論に達し、事業が進められました。

まちづくり複合施設建設は、当初より想定されていた森林資源の循環や、町内を中心とした地域経済の循環の他、地元建築技術者の育成や町民の交流拡大など多くの効果が得られました。

この森林の生産から加工、建設そして利用までの一連の流れを地域内で実現した事が評価され、令和2年度木材利用優良施設コンクールで最高賞である内閣総理大臣賞を受賞しました。



■「内閣総理大臣賞の受賞」白鷹町まちづくり複合施設

令和元年3月、白鷹町まちづくり複合施設が完成しました。老朽化し、耐震性能の乏しい役場庁舎と中央公民館の建替えにあわせて、まちづくりの拠点とな



※「森林と共に（通年特集）」1年にわたり白鷹町の森林・林業に係る取り組みを関係者へのインタビューも交えてお伝えします。
※前回までの連載コーナー「Ambitious」は、本誌の中で引き続き、隔月で紹介していきます。